

# 1. 総括：「メディア教材のプロトタイプに関する研究」プロジェクト（平成9年度－12年度）

メディア教材研究開発部門 WG

（山田恒夫・芝崎順司・宮本友弘・加藤 浩）

本章では、プロジェクト最終年度にあたり、「メディア教材のプロトタイプに関する研究」プロジェクトの4年間の成果を総括する。プロジェクト発足時概算要求の目標、研究組織の構成、研究開発の成果、事業への貢献などについてまとめた。

## 1. 目標

「メディア教材のプロトタイプに関する研究」プロジェクト（以下、「メディア教材プロジェクト」と略記）は、1996年4月メディア教育開発センターの改組に際し設置された。4年間の時限プロジェクトで、本年度が最終年度である。

当時すでに、高等教育機関に対する新しいメディアの急速な導入は予見されたところであり、各種メディアを効果的に利用した次世代型メディア教材の必要性が認識されていた。本研究プロジェクトでは、学習形態、教材コンテンツ、学習者特性等の要因に関し、利用メディア、教材構造を最適化するための学習・教材理論を検討するとともに、その知見を活用したプロトタイプ教材の研究を行うことが期待された。大目標は以下の3つである。

### ① メディア教材のプロトタイプの開発およびその実証的評価研究

映像独自の技法を活かした高品位パッケージ型教材、学習者との相互作用を重視したマルチメディア自律学習型教材、ネットワークを利用した遠隔協調型教材の各種プロトタイプを開発し、その実証的評価研究を行うことにより、多様な学習形態に応じたメディア教材の特性を明らかにする。特に、ヒューマンインタフェースに優れ、今後教育機関における利用促進が期待される、DVD（Digital Versatile Disc、多用途デジタルディスク）およびコンピュータネットワークを高度に活用した教材を開発・評価し、その成果を高等教育機関に提供する。

### ② 教材構造の最適化および利用法に関する理論的実証的研究

教材の学習効果に関し、コンテンツ、利用メディア、学習者特性、教材の構成等による相互作用を明らかにし、教材構造の最適化を図るための評価法を確立する。また、利用条件による学習効果の相違を実験的に分析し、各種メディア教材の効果的利用法を明らかにする。

### ③ メディア教材の開発・利用・評価に関する国内・国際調査

国内外の高等教育機関等を対象に、各種メディア教材の開発の現状と将来計画、メディア教材開発環境の現状と整備計画、メディア表現およびメディアリテラシーの教育の現状と将来計画、マルチメディア教材の品質に関する評価基準の現状とその整備計画等について、訪問調査や質問紙調査を実施し、高等教育等におけるメディア教材の目的・機能・特性、メディア教材開発支援の方法等について検討する。

## 2. 研究組織

上記目標を達成するために、表1の研究組織が形成された。メディア教材研究開発部門を中心に、教授1、助教授5、助手2を核とし、客員教官（客員教授6名、客員助教授3名、計9名）、研究協力者（26名）の構成である（2001年2月現在）。4年間のプロジェクト期間中、放送番組制作担当教官が放送大学に配置換えとなる一方、新任教官2名の受け入れがあった。

このほか、後述するように、共同研究員、特別共同利用研究員、外国人研究員が本プロジェクトに参加した。

プロトタイプといえども、その教材開発にあたっては、メディア技術、コンテンツ、教授法も含むインストラクショナルデザイン、映像表現など、さまざまな分野の専門家の共同作業が必要になる。また、映像や音声の収録や完成した教材の評価に際しては、いわゆる教育現場の参加も不可欠である。本プロジェクトの遂行に際しては、大学共同利用機関という立場と、客員教官、研究協力者という制度を有効に機能させることができた。

表1 研究組織

氏名	所属	専門領域	9年度	10年度	11年度	12年度
<b>センター教官</b>						
福井 康雄 (主査)	教授 (メディア教材部門)	視聴覚教育	○	○	○	○
山田 恒夫 (副査)	助教授 (メディア教材部門)	学習心理学	○	○	○	○
飯森 彬彦	助教授 (メディア教材部門)	視聴覚教育	○	○	○	
池田 肇	助教授 (メディア教材部門)	放送教育	○	○	○	
小林 善行	助教授 (メディア教材部門)	放送教育	○	○	○	
高津 直己	助教授 (メディア教材部門)	教育工学	○	○	○	○
田中 克巳	助教授 (メディア教材部門)	放送教育	○	○	○	
芝崎 順司 (担当責任者)	助教授 (メディア教材部門)	教育工学	○	○	○	○
加藤 浩	助教授 (メディア教材部門、 平成12年4月1日着任)	教育工学				○
柳沼 良知	助教授 (メディア教材部門、 平成12年2月1日着任)	情報工学			○	○
宮本 友弘 (担当責任者)	助手 (メディア教材部門)	教育心理学	○	○	○	○
近藤 智嗣	助手 (データベース部門)	教育工学	○	○	○	○
氏名	所属	専門領域	9年度	10年度	11年度	12年度
<b>客員教官</b>						
赤堀 侃司	東京工業大学教授	教育工学	○	○	○	○
井上 光洋	大阪大学教授 (平成12年逝去)	教育工学	○	○	○	○
高桑 康雄	江戸川大学教授	視聴覚教育	○		○	○
東倉 洋一	NTT先端技術総合研究所所長	音響工学	○	○	○	○
中野 照海	国際基督教大学教授	視聴覚教育	○	○	○	○
西之園晴夫	仏教大学教授	教育工学	○	○	○	○
水越 敏行	関西大学教授	教育工学		○	○	
エリック・マクダーモット	ATR人間情報通信研究所研究員	情報工学		○	○	○
小川 亮	上越教育大学助教授	教育心理学		○	○	○
松田 稔樹	東京工業大学大学院助教授	教育工学		○	○	○

氏名	所属	専門領域	9年度	10年度	11年度	12年度
<b>研究協力者</b>						
高桑 康雄	江戸川大学教授	視聴覚教育		○		
福沢 周亮	聖徳大学教授	言語心理学	○	○	○	○
鮎澤 孝子	東京外国語大学教授	日本語教育	○	○	○	○
井上 誠喜	日本放送協会	マルチメディア工学	○	○	○	○
片桐 滋	ATR人間情報通信研究所第一研究室長	音声工学	○	○	○	○
吉田 光雄	大阪大学名誉教授	統計学	○	○	○	○
Strange, Winifred	ATR人間情報通信研究所招聘研究員(サウスフロリダ大学教授)	音声学	○			
影浦 攻	宮崎大学教授	教師教育	○	○	○	○
高野 二郎	東海大学教授	言語教育	○	○	○	○
高橋 守人	東海大学教授	英語教育	○	○	○	○
谷口 聡人	東海大学教授	日本語教育	○	○	○	○
宇佐美 洋	新潟大学講師	日本語教育	○	○	○	○
浪田克之介	北海道大学教授	英語教育	○	○	○	○
今井 光規	大阪大学教授	言語学・言語教育	○	○	○	○
服部 典之	大阪大学助教授	言語学・言語教育	○	○	○	○
水光 雅則	京都大学教授	英語教育	○	○		
立山 龍男	鹿児島大学教育学部附属小学校副校長	教師教育	○	○		
唐津 利文	宮崎市立学園木花台小学校校長	教師教育	○			
石隈 利紀	筑波大学助教授	学校心理学	○	○	○	○
市川 伸一	東京大学教授	教育心理学	○	○	○	○
岡田 康伸	京都大学教授	教育心理学	○	○	○	○
小野瀬雅人	鳴門教育大学助教授	教育心理学	○	○	○	○
倉光 修	大阪大学教授	臨床心理学	○	○	○	○
國分 康孝	東京成徳大学教授	カウンセリング心理学	○	○	○	
塩見 邦雄	兵庫教育大学教授	教育心理学	○	○	○	○
田畑 治	名古屋大学教授	教育心理学	○	○	○	○
松浦 宏	大阪教育大学教授	教育心理学	○	○	○	○
松村 茂治	東京学芸大学教授	教育心理学	○	○	○	○
渡辺三枝子	筑波大学教授	カウンセリング心理学	○	○	○	○
鶴養 美昭	日本女子大学教授	臨床心理学	○	○	○	○
大関 健道	野田市立福田中学校教諭	教育相談	○	○	○	○
大野 精一	東京都立足立西高等学校教諭	教育相談	○	○	○	○
片野 智治	私立武南高校教育相談主事	教育相談	○	○	○	○
佐藤 勝男	埼玉県立大宮商業高等学校校長	教育相談	○	○	○	○
野中真紀子	埼玉県立総合教育センター主任指導主事	カウンセリング心理学	○	○	○	○
松本 昌治	埼玉県立浦和商業高等学校教諭	教育相談	○	○	○	○
横島 義昭	茨城県教育庁高校教育課	教育相談	○	○	○	○
鈴木 未央	東京都世田谷区立教師区相談室	カウンセリング		○	○	○
新福 知子	東京都台東区立教育研究所	カウンセリング		○	○	○
宇佐見昇三	駒沢女子大学教授	視聴覚教育	○	○	○	○
黒田 卓	富山大学講師	教育工学	○	○	○	○
鈴木 克明	東北学院大学助教授	教育工学	○	○	○	○
平山 勉	秋田大学教育学部助教授		○	○		

### 3. 研究開発の流れ

本プロジェクトの研究開発段階は、大きく基礎研究、戦略的研究、実用化研究に区別される。

基本的に、基礎研究は研究者個人のレベルにおいて実施され、教材に対するニーズの調査、教材の対象とする学習過程の解明、新たな要素技術の利用などが図られた。その成果は、戦略的研究における次世代教材プロトタイプの開発において統合され、新型プロトタイプに不可欠な要素として活用された。実用化段階では、形成的評価によって完成したプロトタイプに関し、さらに事業化に向けて検討が加えられた（研究開発の流れについては、山田、2000aを参照のこと）。

#### 3.1 基礎研究段階

基礎研究段階は、効果的なメディア教材の開発・利用・評価のための基礎的段階であり、学習・認知心理学などの人間科学、及び、教育工学や計算機工学などの観点からの、メディア教材の開発、利用、評価に関する理論的・実証的な研究、個別分野におけるメディア教材の学習内容や学習過程に関する実証的研究などがある。

##### ① 学習・認知過程の心理学的分析：

さまざまな特殊の学習について、その知覚・認知・学習を理論的かつ実証的に検討し、各種学習コンテンツの最適な表現・提示法を明らかにした。

山田は第2言語音声学習に関して、その加齢効果（age effects）を中心に実験的分析を実施した（久保ら、2000）。宮本は従来の観察学習、モデリングの理論を再考するとともに、映像提示されたカウンセリングの認知過程を分析し、視聴評価尺度の開発を行った（宮本、2000b）。近藤らはWWW上での情報探索におけるナビゲーションの問題を検討した。

##### ② 最新要素技術応用の研究：

DVDやインターネットなどの情報通信技術によって実現される教材の構造、機能、インターフェースの可能性と有効性について実証的に検討した。また、メディア教材の効果的な開発技法を開発した。

特に、教材開発におけるDVDの活用という点では、世界に先んじてDVD-Video教材を開発した放送教育開発センター時代からの成果を引き継ぎ、インターネットとDVDを併用したDVD-video/DVD-ROMハイブリッド教材（1998年度、教師教育教材「小学校における国際理解教育－外国語学習の取り組み－」）やDVD-audio教材（2000年度および2001年度、高等教育外国語教材プロトタイプ「アカデミック英語リスニング 1および2」）においても世界初の試みを行うことができた。また、民間研究機関であるATR（国際電気通信基礎技術研究所）と共同し、インターネット公開実験（山田・足立・山田、2001）、音声認識・合成・処理、ロボットなどの教育利用の検討を実施したほか、DVDによって実現されるマルチアングル、マルチテロップなどの新機能については、映像編集という立場（近藤・芝崎、1998）、カウンセリング（宮本、1999）や教師教育（宮本・近藤、1998）の観点から実施あるいは分析した。

また、ネットワーク・ベース・トレーニングを実現するための基礎システムとして、カウ

ンセリングの学習を題材に、遠隔共同学習支援システムの設計とプロトタイプの開発を行った（詳細は、本報告書p.158-161を参照のこと）

③ メディア教材の品質保証システムの研究：

教材の品質と機能に関して、国際的にも通用する評価方法を検討した。特に、OECD（経済協力開発機構）・CERI（教育革新研究センター）「情報通信技術（ICT）と教育の質」プロジェクトに参加しながら、各国の教育ソフトウェアの客観的評価基準を比較し、今後の品質保証システムにつき展望した（山田、2001）。

また、教材の実用性を重視した評価方法として、Program Evaluationの手法を研究した（宮本）。

④ 学習者のメディアリテラシーの研究：

情報通信技術の教育利用を基礎づける学習者のメディアリテラシーを理論的かつ実証的に検討し、メディア教材の利用を促進するための学習者要因を明らかにした。

⑤ 高等教育機関におけるメディア教材に関する実態調査：

高等教育機関におけるメディア教材一般の開発環境、利用状況、ニーズについて全国規模の調査を実施し、メディア教材開発策定のための情報収集を行った（芝崎、1999；高津・佐藤、2001）。

また、特定の専門領域として、全国の看護系養成学校におけるメディア環境、及び、メディア利用とメディア教材のニーズに関する調査を実施し、看護教育教材の開発のための基礎資料を収集した（浅野他、2000）。

なお、国内外の先進事例に対する訪問調査については、本センター教官、客員教官、研究協力者が分担し、在外研究員、文部省科学研究費補助金などの助成金も活用しながら実施した。

### 3.2 戦略的研究段階

戦略的研究段階では、ニーズ調査等の結果から戦略的分野を特定し、当該分野における各種プロトタイプ教材の研究開発を行った。基礎研究の知見を踏まえ、高等教育の具体的な内容について、メディア教材のプロトタイプの研究開発を行い、その開発過程、及び、評価を通じて、当該教材の実用化のための要件を明らかにした。

本研究プロジェクトでは、教材のコンテンツとして、以下の戦略的分野を選定した。

- ① 高等教育の情報化・国際化に対応した分野（情報教育、外国語教育など）
- ② 人材育成の改善が急務とされる分野（教師教育、看護師教育など）
- ③ 世界的に学習資源が偏在し、我が国がリードすべき分野（日本語教育など）

こうした観点から、「総合的な学習の時間」教師教育教材、カウンセリング教師教育教材、看護教材、情報化教材、第2言語教育教材のそれぞれにつき、いくつかのプロトタイプが研究開発された。以上に加え、遠隔協同学習支援システム、それに対応したコンテンツの研究を行った（詳細は4）を参照）。

プロトタイプ教材の研究開発は、次のステップで進めた。

- ① 予備調査（一部は基礎研究段階で達成）：当該分野におけるメディア教材のニーズを質問

紙調査、面接調査によって把握し、学習内容を選定し、そのカリキュラム、教授学習デザインの検討して、教材のコンセプト、設計を行った。

- ② 素材、試作版教材の開発：映像、音声などの素材、及び、それらを利用した試作版教材の開発した。
- ③ 形式的評価研究：実証実験によって、さまざまな問題点の洗い出しを行い、プロトタイプ改良に生かした。

### 3.3 実用化研究段階

事業部メディア教材開発事業での実用化をめざし、同事業との連携のもと、上記の研究成果を応用して、実用的な教材の開発を行った。技術移転は大きく2つに大別できる。

#### ① プロトタイプ教材の実用化：

戦略的研究における完成度の高い開発物は、複製され大規模調査で検討されたり、事業部で引き続きシリーズ化されることが多い。事業部では、戦略的研究段階の形式的評価研究を踏まえ、研究開発成果であるプロトタイプを改良する形で、教材制作を行うことが期待されている。

#### ② 事業部等に対するコンサルティング：

基礎研究や戦略的研究における知見やノウハウを活用して、新規教材を企画、制作した。本プロジェクトに参加するセンター教官の多くは事業部メディア教材開発事業企画会議の主構成員でもあり、こうした作業は同企画会議で実施された。

これ以外の事業部に対する貢献として、マルチメディア教材を生かしたカリキュラム開発や同教材の活用法に関する研修の実施などが予定されている (cf. 山田・當作、2000)。

## 4. 主たる研究成果

本プロジェクトにおける研究開発は、3) で示したように研究開発段階として位置づけられるほか、教材開発の基盤となったメディア技術、あるいは対象としたコンテンツからも分類できる。こうした研究成果を、いくつかの分野において紹介する。

### 4.1 「総合的な学習の時間」教師教育教材

メディア教育開発センターの前身である放送教育開発センターでは、教材研究室を中心に、教師教育の文脈で数多くのビデオ教材を開発供給してきた。改組後も、その伝統はその研究開発的側面が本プロジェクト、その実用的側面が事業部メディア教材開発事業に引き継がれた。教師教育は、初等中等教育を支える高等教育のきわめて重要な貢献であることに変わりはなく、むしろ近年の教育の情報化・国際化の流れの中で、その役割の重要性を増している。特に、2002年度から本格的に導入が開始される新学習指導要領に対する対処や、学級崩壊などにみられる学校コミュニティの急速な変化に対応すべく、緊急な対応を必要とする分野は少なくない。

こうした背景から、本プロジェクトでは特に研究開発性の強い分野として、新学習指導要領で新規に導入される「総合的な学習の時間」と、教師に求められる教育相談 (カウンセリング)

の知識、技能、態度についてとりあげることにした。

1997年度制作したDVD教師教育教材「小学校における国際理解教育－外国語学習の取り組み－」については、DVD-VideoとDVD-ROMのハイブリッドであること、DVDとインターネットを併用することなど、これまでにはないコンセプトの教材となっている（詳細は、本報告書p.43-45参照）。また、ビデオ教材については、これまでにない構成・演出がなされている。こうした成果は、事業部に転用され、「総合的な学習の時間」教師教育教材としてシリーズ化（平成11－14年度を予定）されている。

#### 4.2 カウンセリング教師教育教材

急増する児童・生徒の問題行動の対応として教師教育の最重要課題である、カウンセリングを中心とした教育相談に関する態度・知識・技能の育成について、その学習支援を目的に、教材のプロトタイプの研究開発を行った。まず、教師、スクールカウンセラー、専門機関相談員による相談面接場面の映像素材の開発を行い、従来のビデオ、及びDVDビデオそれぞれの特性を生かして、異なるコンセプトからなる教材を構成した。

ビデオ教材では、教師、スクールカウンセラー、専門機関相談員が実際に扱ったケースを題材に、当該機関の教育相談への組織的な取り組み方・体制の説明も組込んだ、事例報告的な構成を試みた（詳細は、本報告書p.27-40を参照のこと）。1巻につき1事例を取上げ、3巻からなる。これらは、評価調査（宮本、2000a）に基づいて改訂を加え、「学校教育とカウンセリング」というタイトルで事業化された。

一方、DVD教材では、カウンセリング演習での利用を目標に、教師、スクールカウンセラー、専門機関相談員による相談面接場面の映像に、DVDの諸機能によるシミュレーションの要素を加え、新しい観察学習の方法を考案した（Miyamoto他、2000d）。大学の授業担当者、及び、現職教員研修担当者を対象に評価調査を行った結果、高い評価を受けた（宮本、2000c）。また、関連教育機関に無償配布され、実際の授業や研修で広く利用されている。

#### 4.3 看護教育教材

1998年に実施した看護系養成学校におけるメディア環境、およびメディア利用とメディア教材のニーズに関する調査を行った結果、看護の分野におけるマルチメディア教材開発の必要性が明らかになった。そのことをうけ、看護協会と連携協力のもと、事業部において、1999年度にCD-ROM教材2タイトル、2000年度にCD-ROM教材2タイトルおよびDVD-Video教材1タイトルを制作したが、一方、研究開発部においても、2000年度にDVD-VideoとDVD-ROMのハイブリッド版「看護における情報の活用」を開発し、映像教材とコンピュータベースの教材の連携の可能性を検討した。また、開発したCD-ROM教材の一部をインターネット上で公開し、教材の評価研究を行った。

#### 4.4 外国語教育教材

日本語教育を含む外国語教育の分野において、大学や官民研究機関との共同研究を効果的に活用し、基礎研究から事業部における実用化まで広範囲に展開することができた。さまざまな

年齢層における英語リスニング・スピーキング学習過程の分析（ATRとの共同研究）、音声認識や仮想現実感（VR）を活用した各種外国語教育素材の開発、インタラクティブな訓練システムの開発は2冊の書籍（山田、足立、ATR人間情報通信研究所、1998、1999）にまとめられたほか、論文や学会発表の形式で公表された。

また、2000年度開発したDVD-audio教材「アカデミック英語リスニング 1」および2001年度開発の「同2」では、可聴域をはるかに越える標本化（最大192kHz）、きめ細かい量子化（最大24bit）、音像定位可能な5.1chサラウンド再生、インタラクティブメニュー、静止画によるテキストの提示などのDVD-audioメディアの特徴を生かし、高等教育上級者向けの、より自然でauthenticなリスニング教材を実現した。本教材では、背景騒音の異なる条件を用意したほか、複数の発話が重畳する一方音像が定位できるといった、従来のリスニング教材にはない特徴が実現されている（詳細は、本報告書p.45-47を参照のこと）。

一方、郵政省（現、総務省）ポストパートナーズ計画の一環として実施した、日本語および東南アジア諸語教育およびその教師教育の遠隔授業は、タイ・キングモンクット工科大学との共同研究を端緒に、現在タイ・チェンマイ大学、マレーシア科学大学に拡大され、さらなる発展が期待されている。こうした遠隔授業の分析において、第2言語教育における衛星通信というシステムが有する問題点も明らかになり、それを補完するような教材の開発が示唆された（山田・近藤・田中ら、1998；山田・近藤・浅井ら、1998）。プロトタイプとして、日本語教師教育において素材型教材を開発したが、これはオハイオ州立大学との共同研究であり、米国ロケも実施された（野田・山田、1998）。

一方、実用化を視野に入れて、1998年度千葉大学竹蓋幸生教授と山田で開始された共同研究は、翌年度から事業部のCALL教材シリーズ（高津直己・山田恒夫制作担当）に結実し、現在3年度目を迎え、製作本数もCD-ROM9本、内容も中上級英語リスニングから医学英語、中国語リスニングに発展している。

さらに最近では、こうした事業部の制作物が教材の評価や利用法の分析といった基礎研究に使用されるケースも生じ、基礎研究、戦略的研究、実用化研究が循環して発展する様相もみられるようになった。

#### 4.5 情報化教育教材

北米において先行する情報リテラシーカリキュラムをベースに、高等教育における基礎教育としての情報リテラシー教育のためのプロトタイプ教材の開発を試みた（芝崎、2000）。

本情報リテラシー教材は、Web上で利用するもので、「資料編」と「学習編」から構成されている。資料編は、教師が、情報リテラシーの授業をすすめるための基礎的資料を提供することを目的としている。「学習編」はそれぞれの学習の小項目について、「解説」と「学習」から構成されており、「学習」は「解説」で学習した内容を基に、学習者が必要に応じて調べ学習をした結果をボードに記入しながら学習をすすめることになるため、学生が自学・自習をすることも可能であるが、主として、ネットワークで接続された環境において、教師の介在が比較的容易な少人数の遠隔または教室授業や実習での利用を主たる目的とし、インタラクティブ性の高い構成となっている。本プロトタイプ教材は今後事業部においてもネットワーク上で提供・



利用される教材のプロトタイプとなるものである。

#### 4.6 協同学習環境のデザインに関する研究

加藤は、対面／遠隔状況を問わず創発的な分業が行われるような学習環境をデザインするための方法論を確立することを目的として、実際に協同学習支援システムを利用している現場での参与観察を実施した。

2001年度は、大学文科系の初心者を対象にしたプログラミング教育実践においてアルゴアリーナを用い、カリキュラム開発ならびに評価を行った。また、筑波大学・埼玉大学と共同で遠隔共同学習システムの研究開発ならびに評価実験を実施した。本研究成果は、対面授業型ではなく、遠隔地間での共同作業を伴うような協調学習を支援するのに応用できる。

今後は、広帯域インターネットの普及をにらんで、よりメディアリッチなシステムの開発を進めていく計画である。

### 5. その他の教育研究活動

#### 5.1 外国人研究員

外国人研究員としては、1997年度、1999年度に各1名を受け入れた。

エーリッヒ・ノイビルト博士 (Erich Neuwirth、当時オーストリア・ウィーン大学助教授) は、1997年7月から9月、3ヶ月間滞在し、「教育のためのマルチメディアツールと教材」というテーマで共同研究を実施した (受入担当教官、山田)。同博士は、数学、統計学、科学教育の分野におけるコンピュータ利用について、いくつかの著作があるほか、1996年には、マルチメディア教材「調律の数学的基礎 (Mathematical Foundations of Musical Tunings)」で、ヨーロッパ学術ソフトウェア賞 (The European Academic Software Award) を受賞している。今回の滞在では、高等教育におけるWWWの利用について、特に音楽教育に関するツールの開発・評価を実施したほか、西洋と日本の調律システムに関する比較研究 ("Comparison of Tuning Systems in Western and Japanese Music") について理論的検討および資料収集にあたった。

ドナ M. エリクソン・スミス博士 (Donna M. Erickson-Smith、当時米国オハイオ州立大学主任研究員) は、1999年6月から2000年3月まで、10ヶ月間滞在し、国際理解教育・外国語教育教材の高度化の研究に従事した (受入担当教官、山田)。同博士は言語学、特に音声学の立場から、言語教育に関心があり、日本人英語学習者におけるプロソディ学習の実験的研究を実施したほか、DVD-audio教材等の開発にあたり音声学者としての立場から音声素材の校閲にあたった。

#### 5.2 文部省在外研究員

本センター教官のうち今回のプロジェクト期間中、文部省在外研究員に採択されたのは表2の4名である。在外研究員は海外で本プロジェクトに関連する研究を遂行した。

表2 文部省在外研究員

氏名	種別	派遣期間	主たる滞在先	研究題目
芝崎順司	長期	1997年3月30日 ～1998年3月29日	セントラルフロリダ大学	メディアリテラシープログラムの開発と評価に関する研究
宮本友弘	長期	1999年3月20日 ～2000年3月17日	イリノイ大学アーバナ・シャンペイン校	高等教育におけるマルチメディアを利用した教材の評価と改善に関する研究
山田恒夫	調査	2000年2月22日 ～4月17日	カリフォルニア大学サンディエゴ校ほか	マルチメディア・ネットワーク学習リソースに関する研究開発動向の調査－北米における次世代型教育ソフトウェアの開発動向とその客観的評価基準の調査を中心に－
近藤智嗣	長期	2000年5月24日 ～2001年3月23日	エディンバラ大学	

### 5.3 共同利用研究員

共同利用研究員は毎年度テーマを定めて公募し、審査により採択される研究員である。対象は、大学・高等専門学校等高等教育機関やそれに準じる教育研究機関の常勤の教職員とされている。本共同研究に係る費用は本プロジェクト経費からあてることとなっているため、主に、高等教育におけるメディア教材の利用状況とニーズに関する調査、あるいは、メディア教材の実証的評価調査がテーマとなっている。一覧を表3に示す。

表3 共同利用研究員

年度	氏名	所属先・職名	研究目的
9	市古 喬男	山形大学工学部電子情報工学科・助教授	情報教育教材に関するニーズ調査
9	竹蓋 幸生	千葉大学教育学部・教授	CALL教材に関するニーズ調査
9	浅野 弘明	京都府立医科大学医療技術短期大学部・助教授	看護系養成学校におけるメディア環境、及び、メディア利用とメディア教材のニーズに関する調査
10	大沢 岳彦	日本橋女学館短期大学・専任講師	DVD教材の評価
10	太田 裕彦	放送大学教養学部・助教授	DVD教材の評価
10	塚本美恵子	駿河台大学助教授	DVD教材の評価
12	佐藤 頌子		高等教育におけるメディア教材の利用状況とニーズに関する調査

#### 5.4 特別利用研究員

特別共同利用研究員は、本センター以外に所属先のある大学院生を対象に、博士課程は所属先での在籍期間内、修士課程は1年に限って行われるものである。所属先の指導教官との密接な連携が期待される場所であるが、運用に際してはなかなか困難な点も少なくない。過去に受け入れた特別共同利用研究員を表4に示す。

表4 特別共同利用研究員

年度	氏名	担当	所属先・学年・指導教官	研究目的
11	小林 佳美	山田 恒夫	獨協大学大学院博士課程前期 2年・経済研究科・立田ルミ 教授	問題発見、解決型マルチメディア教材の利用と開発について
11	関口 明子	山田 恒夫	聖徳大学大学院修士課程2 年・児童学・福沢周亮教授	幼児の音楽聴取における実証的研究
12	木村 拓	山田 恒夫	文教大学大学院言語文化研究 科・修士課程2年・遠藤織枝 教授	メディアを利用した日本語教師の支援について
12	蜂巢美穂子	宮本 友弘 山田 恒夫	聖徳大学大学院博士課程1 年・心理学・福沢周亮教授	児童文学の翻訳・翻案に関する言語心理学的研究—『三匹の子ぶた』を対象として
12	藪中 征代	宮本 友弘 山田 恒夫	聖徳大学大学院博士課程1 年・心理学・福沢周亮教授	児童における読みに及ぼす音楽の影響に関する実証的研究—

#### 6. 助成金交付状況

外部からの助成金は、本プロジェクトと直接関係するものではないが、外部評価の1つと考えられるので記載する(表5)。

表5 助成金交付一覧

文部省科学研究費補助金

年度 平成	種別	課題番号	課題名	研究者 (代表・分担の別)
9-12	基盤研究 (C)一般 (2)	09610160	海外滞在者における母語・第2言語能力変容過程の長期追跡研究—第2言語学習の年齢効果と早期教育効果を中心に—	山田恒夫(代表)
10	奨励研究 (A)	10710074	メタ分析による映像の学習効果の総合的検討と映像教材の評価法の改善に関する研究	宮本友弘(代表)

12-14	奨励研究 (A)	12780143	学習者のインターネットによる効果的・適切な情報 発信を支援する評価基準に関する研究	芝崎順司 (代表)
8-10	基盤研究 (A)(展開) (1)	08558017	「学校教育向けのネットワーク環境整備に関する評 価研究」(研究代表者:メディア教育開発センタ ー・所長・坂元 昂)	山田恒夫 (分担)
8-10	基盤研究 (B)(一般) (2)	07451032	「電子メールを活用した文科系学生の情報処理およ び心理学教育」(研究代表者:大阪大学・人間科学 部・教授・吉田 光雄)	山田恒夫 (分担)
10-12	基盤研究 (B)(一般) (1)	10410038	「心理学の主体的学習を支援する教材および教授法 の研究」(研究代表者:メディア教育開発センタ ー・教授・伊藤 秀子)	山田恒夫 (分担) 宮本友弘 (分担)
10-12	国際学術 研究(学 術調査) のち 基盤研究 (B)(一般) (2)	10041048	「高等教育における高度情報通信技術の活用」(研究 代表者:メディア教育開発センター・所長・坂元 昂)	山田恒夫 (分担)
10-11	国際学術 研究(共 同研究)		「海洋志向性に関する国際比較研究」(研究代表者: 大阪大学・人間科学部・教授・吉田 光雄)	山田恒夫 (分担)
11-12	基盤研究 (A)(一般) (2)	国 11691047	「教育における情報通信技術の利用と評価に関する 国際比較研究」(研究代表者:メディア教育開発セ ンター・教授・菊川 健)	山田恒夫 (分担)
11-13	基盤研究 (B)(一般) (2)	国 11695025	「日加間の遠隔学習における相互適用性に関する研 究」(研究代表者:メディア教育開発センター・教 授・小林 登志生)	山田恒夫 (分担)
11-13	基盤研究 (A)(一般) (1)	11308008	「高度情報通信技術の教育利用の効果評価と教育改 善」(研究代表者:メディア教育開発センター・所 長・坂元 昂)	山田恒夫 (分担)
11-13	基盤研究 (A)(展開) (2)	11358002	「仮想空間における人間の認識の成立と伝達能力の 育成の研究」(研究代表者:メディア教育開発セン ター・所長・坂元 昂)	山田恒夫 (分担)
11-14	特定領域 研究(A) (1)総括班	11117201	「21世紀の高等教育におけるマルチメディア教育利 用への展望」(研究代表者:メディア教育開発セン ター・所長・坂元 昂)	山田恒夫 (分担・ 事務担当者)
12-14	特定領域 研究(A) (2)計画研 究	12040241	「マルチメディア・ネットワークシステムの高度化 の研究」(研究代表者:メディア教育開発センタ ー・教授・近藤喜美夫)	山田恒夫 (分担)

## その他の助成金

年 度 平 成	種 別	課 題 名	研 究 者 (代表・分担の別)
9	(財)放送大学教育振興会	「第2言語音声教育における衛星系ネットワークシステムの利用可能性に関する調査研究」	山田恒夫 (代表)
9	(財)衛星通信教育振興協会	「衛星通信教育で利用する高等教育共通教材のプロトタイプに関する研究開発」	福井康雄 (委員長) 山田恒夫・芝崎順司・宮本友弘 (委員)
9	(財)電気通信普及財団	海外渡航旅費「第14回CALICO年次総会」	山田恒夫 (代表)
9-11	(財)日本教材文化研究財団	「教育におけるマルチメディア・インターネットの効果に関する研究」(委員長:メディア教育開発センター・所長・坂元 昂)	山田恒夫 (委員)
10	(財)放送大学教育振興会	「第2言語教育における国際衛星通信利用の高度化に関わる研究開発」	山田恒夫 (代表)
10	(財)衛星通信教育振興協会	「衛星通信教育で利用する高等教育共通教材のプロトタイプに関する研究開発」	山田恒夫 (委員長) 福井康雄・芝崎順司・宮本友弘 (委員)
11	(財)放送大学教育振興会	「高等教育における国際衛星通信利用の実用化に関わる研究開発—国際SCSのシステム・利用環境に関する国際共同研究」	山田恒夫 (代表)

## 7. 今後の課題—次期プロジェクトに向けて—

本プロジェクトでは、映像論、メディア、インストラクショナル・デザイン、コンテンツ等に関し、多くの独創的なプロトタイプを開発してきた。くわえて、その成果は、センター内外で次世代型教材開発に生かされている。

高等教育においてもメディア教材の開発流通に中核的機関が必要であるとの認識を背景に、大学共同利用機関としての役割、研究開発部と事業部の密接な連携などの特長を有する本センターは、国内外において注目されるに至っている (yamada, 2000)。しかしながら、本格的な「コンテンツの時代」を前に、今後に残された課題も少なくない。日進月歩のテクノロジーへの対応、国際通用性の高いコンテンツの開発、教材の大量供給・流通への基盤の確立、プロフェッション教育を促進する学習コンテンツなど、今後の高等教育に必要とされる独創的なデジタルコンテンツの研究開発などは積み残された問題である。

コンテンツの時代といわれて久しい。しかしながら、多くの高等教育においては、デジタルコンテンツは未集積・偏在しているのが現状である。より一層の情報化を推進するためには、高品質のデジタルコンテンツをいかに開発・集積し、流通させるかが一つの鍵となる。

## 【引用文献】

1. 浅野弘明・宮本友弘・林恭平・福井康雄（2000） 看護系養成学校におけるメディア環境、及び、メディア利用とメディア教材のニーズに関する調査結果 メディア教育開発センター研究報告、15、49-91.
2. 大学審議会（2000） グローバル化時代に求められる高等教育の在り方について
3. International Society for Technology in Education (2000). National Educational Technology Standards for Students: Connecting Curriculum and Technology. ISTE.
4. 近藤智嗣・芝崎順司（1998） 授業記録の教材化におけるエキスパートによるアングル選択の意志決定に関する研究 日本教材学会年報、9、178-180.
5. 久保理恵子・山田玲子・山田恒夫（2000） 中高年齢層を対象とした/r/、/l/音の知覚学習 関西心理学会第112回大会論文集、27.
6. 宮本友弘（2000a） カウンセリング事例映像構成における諸問題－教師教育教材の開発と評価から－ 日本教育メディア学会研究会論集、5、30-37.
7. 宮本友弘（2000b） カウンセリング事例映像に対する教師の視聴反応の分析 教育工学関連学会連合第6回全国大会講演論文集（第二分冊）、549-550.
8. 宮本友弘（2000c）. 教師教育用カウンセリングDVD教材の評価 日本教育心理学会第42回総会発表論文集、407.
9. Miyamoto,T., Harnisch, D.L., Yamada,T., and Hiraga,Y.(2000d). Issues in the design and development of DVD-materials for teacher training in ounseling. In D.A.Willis, J.D.Price, and J.Willis (eds.), Proceedings of the Society for Information Technology & Teacher Education 11th International Conference (pp.1144-1149). Charlottesville, VA: Association for the Advancement of Computing in Education.
10. 宮本友弘・近藤智嗣（1998） DVDメディアの特性を生かした映像教材の開発 日本教材学会年報、9、175-177.
11. 宮本友弘（1999） DVDを利用したカウンセリング教材の開発 日本教材学会年報、10、171-173.
12. National Standards in Foreign Language Education Collaborative Project (1999). Standards for Foreign Language Learning in the 21st Century.
13. 日本語教育学会（2000） 「日本語教員養成と情報リテラシー教育」平成11年度調査研究報告書
14. 坂元昂（1998） 21世紀に向けた教育改革政策 情報処理、39(7)、622-626.
15. 坂元昂（1999） 初等中等教育はどう取り組むべきか 情報処理学会情報処理教育委員会（編）、21世紀の豊かな情報化社会の実現を願って－教育の視点から－ 情報処理学会
16. 高津直己・佐藤頌子（2001） 高等教育におけるメディア教材の利用状況とニーズに関する調査－メディア教材の企画・開発をめざして－ メディア教育研究、06号（印刷中）.
17. 山田恒夫（1997） 高等専門学校共通教材のマルチメディア化とネットワーク化について 放送教育開発センター研究報告「高等専門学校用教材の利用状況とニーズに関する研究－新しい高専教材の開発をめざして－」、第101号、74-78.

18. 山田恒夫 (2000a) メディア教材の設計 NIME-SCS最新講座「教育メディア科学—メディア教育を科学する」 第4章 教育リソース研究.
19. 山田恒夫 (2000b) 教材メディアとしてのDVD 日本教育メディア学会 2000年度第2回研究会「デジタル教育コンテンツ研究の展望」論集、23-27.
20. 山田恒夫 (2000c) DVD-audioを活用した英語リスニング教材の開発 教育工学関連学協会連合第6回全国大会講演論文集、Vol.2、375-376.
21. Yamada, T. (2000). Development of multimedia instructional materials at NIME-Towards advanced utilization of ICT in Japanese higher education-. The Association for Educational Communications and Technology (AECT), International Council's 9th Leadership Project: International Producers Initiative (Long Beach, CA).
22. 山田恒夫 (2001) 欧米における教育ソフトウェアの品質評価基準 科学研究費補助金・基盤研究A「教育における情報通信技術の利用と評価に関する国際比較研究」(課題番号11691047、研究代表者・メディア教育開発センター菊川健) 研究成果報告書 印刷中
23. 山田恒夫・足立隆弘・ATR人間情報通信研究所 (1998) 英語リスニング科学的上達法 (CD-ROM付) 講談社. Pp.1-297.
24. 山田恒夫・足立隆弘・ATR人間情報通信研究所 (1999) 英語スピーキング科学的上達法 (CD-ROM付) 講談社 Pp.1-302 (SLA:99-02747)
25. 山田恒夫・足立隆弘・山田玲子 (2000) 英語マルチメディア教材に付加するインターネット学習者支援機能の研究開発—学習者支援ホームページと電子メールの利用分析—日本教育工学会研究報告集、JET2000-1、1-6.
26. 山田恒夫・近藤喜美夫・田中健二・浅井紀久夫・鮎澤孝子・谷口聡人・高橋守人・Sukhuman Nilrat・Janjira Jittaviriyapong・Narong Hemmakorn (1998) 外国語教育における衛星系ネットワークシステム利用の可能性と問題点 日本教育工学会研究報告集、JET98-1、61-66.
27. 山田恒夫・近藤喜美夫・浅井紀久夫・福井康雄・宮本友弘・田中健二・鮎澤孝子・谷口聡人・高橋守人・Mari Noda・Sukhuman Nilrat・Takako Ohashi・Emi Numata・Narong Hemmakorn (1998) 日本語教育・日本語教師教育における国際衛星通信利用の可能性と問題点—そのカリキュラムと教材の開発に向けて— 日本教育工学会研究報告集、JET98-6、63-70.
28. 山田恒夫・當作靖彦 (2000) 「日本語教育の情報化」に関する教師教育カリキュラム・研修の開発(1) 教育工学関連学協会連合第6回全国大会講演論文集、Vol.1、195-198.

#### 【制作物】

1. メディア教育開発センター (1998) 教師教育教材「小学校における国際理解教育—外国語学習の取り組み—」(DVDビデオ/DVD-ROMハイブリッド版、1巻) 山田恒夫・福井康雄・坂元昂 (企画)、山田恒夫・影浦攻 (監修)
2. メディア教育開発センター (1998) 日本語教師教育教材「オハイオ州立大学における日本語教育」(ビデオ版、1巻) 企画制作、野田真理・山田恒夫 (監修)

3. メディア教育開発センター（1999） 教師教育教材「学校教育とカウンセリング」  
（DVDビデオ版、1巻）、宮本友弘・山田恒夫（監修）
4. メディア教育開発センター（1999） 事業部CALL教材シリーズ「Listen to Me! Vol.1  
College Lectures, Vol.2 People Talk」 （各CD-ROM版、1巻）、高津直己・山田恒夫  
（制作）
5. メディア教育開発センター（2000） 高等教育CALL教材・実験用プロトタイプ「アカデ  
ミック英語リスニング上級 1」（DVD-audio版、1巻） 山田恒夫（監修）
6. メディア教育開発センター（2000） 事業部CALL教材シリーズ「Listen to Me! Vol.3  
TV-News, Vol.4-1 Movie Time 1, Vol.4-2 Movie Time 2」 （各CD-ROM版、1巻）、高津  
直己・山田恒夫（制作）
7. メディア教育開発センター（2000） 事業部教師教育教材「総合的な学習の時間」教師教  
育教材 シリーズ1 （DVD-Video版、1巻、CD-ROM版、1巻） 山田恒夫・飯森彬  
彦（企画制作）
8. 情報処理振興事業協会・コンピュータ教育開発センター（2000） 司書教諭情報化研修マ  
ルチメディア教材（DVD-video、1巻、CD-ROM、6巻） プロジェクトメンバー（主  
査：坂元昂、メンバー：井口磯夫、石井宗雄、椎名健、関口一郎、成田雅博、波多野和彦、  
平久江祐司、三尾忠男、宮岸一孝、村山功、山田恒夫、山本順一）
9. メディア教育開発センター（2001） 高等教育CALL教材・実験用プロトタイプ「アカ  
デミック英語リスニング上級 2」（DVD-audio版、1巻） 山田恒夫（監修）
10. メディア教育開発センター（2001） 事業部教師教育教材「総合的な学習の時間」教師教  
育教材 シリーズ2 （CD-ROM版、2巻） 山田恒夫・加藤敏夫（企画制作）
11. メディア教育開発センター（2001） 事業部CALL副教材シリーズ「日本語韻律」 Vol. 1  
東京語のアクセントとイントネーション、Vol. 2 アクセントの聞き取り練習と外来語ア  
クセント（各CD-ROM、1巻） 山田恒夫（企画制作）



## 付録：研究成果一覧（平成9－12年度）

著書4件、学会誌・論文誌10件、機関誌9件、報告書11件、その他の出版物17件、制作物・開発物22件、国際会議17件、研究会・全国大会47件、講演等12件。

### (1) 著書

- ・山田恒夫・足立隆弘・ATR人間情報通信研究所（1999） 英語スピーキング科学的上達法（CD-ROM付） 講談社（SLA：99-02747）
- ・芝崎順司（1999） マルチメディア素材制作の技術、映像作品制作の技術、博物館でのメディアの活用、メディアリテラシー（計4章） 星野昭彦・貫井正納・吉田雅巳・芝崎順司・山下修一（著）、改訂視聴覚を刺激するメディア活用（pp.79-93、pp.94-108、pp.150-163、pp.183-197）、東洋館出版
- ・山田恒夫・足立隆弘・ATR人間情報通信研究所（1998） 英語リスニング科学的上達法（CD-ROM付） 講談社
- ・宮本友弘（1998） つまづきを見つける認知の理解 國分康孝（編）、授業に生かす育てるカウンセリング（pp. 46-50） 図書文化

### (2) 学会誌、論文誌

- ・芝崎順司（2000） 情報のデジタル化に対応したメディア教育の動向教育．教育メディア研究、6(2)、81-86.
- ・芝崎順司・近藤智嗣（2000） Web情報に対する中学校教員の批判的認識に関する調査 教育メディア研究、7(1)、55-64.
- ・芝崎順司（1999） インターネットに対応した新しいリテラシーの構築．教育メディア研究、5(2)、46-59.
- ・芝崎順司（1999） 高等教育機関における教材の開発および開発支援の現状 教育メディア研究、5(2)、86-93.
- ・宮本友弘（1999） DVDを利用したカウンセリング教材の開発 日本教材学会年報、10、171-173.
- ・山田恒夫（1999） 外国語音声学習と年齢 日本音響学会誌 55(1)、38-44.
- ・宮本友弘・近藤智嗣（1998） DVDメディアの特性を生かした映像教材の開発 日本教材学会年報、9、175-177.
- ・近藤智嗣・芝崎順司（1998） 授業記録の教材化におけるエキスパートによるアングル選択の意志決定に関する研究 日本教材学会年報、9、178-180.
- ・宮本友弘（1997） 地理学習における地形の視覚表現の最適化のための基礎的研究：鳥瞰的表現と立体的表現の比較 日本教材学会年報、8、96-98.
- ・芝崎順司（1997） 映像構成理論に基づく教材の分析 日本教材学会年報、8、93-95.

### (3) 機関誌

- ・石隈利紀・宮本友弘・小野瑠美子（2001） 教育養護教諭における心理的援助サービスの実

践とスクールカウンセラーに対するニーズ—学校心理学の枠組みから— 教育相談研究、38、47-58.

- ・高津直己・佐藤頌子 (2001) 高等教育におけるメディア教材の利用状況とニーズに関する調査—メディア教材の企画・開発をめざして— メディア教育研究、6 (印刷中)
- ・加藤浩 (2000) ゲームの状況設定を用いた大学文科系向けプログラミング教育の実践 明治大学情報科学センター年報、12、8-14.
- ・谷口聡人・鮎澤孝子・山田恒夫 (1999) 衛星通信を利用した日本語遠隔授業の試み—タイ王国キングモンクット工科大学と結んで— 東海大学紀要 (留学生教育センター)、19、61-67.
- ・山田恒夫 (1998) メディア教育開発センターにおける国際衛星通信教育高度化の取り組み 文化庁「衛星通信を活用した日本語教育の推進」 Pp.96-97.
- ・池田輝政・瀬田智恵子・苑復傑・宮本友弘 (1997) オープン・ラーニングの実験—SCS短期講座の実施結果 高等教育ジャーナル (北大)、2、122-137.
- ・山田恒夫 (1997) アメリカ英語話者による日本語短母音・長母音・促音の学習—第2言語音声学習の基礎研究と教材開発に関わる諸問題— 放送教育開発センター研究報告「メディア教材の構造と利用に関する基礎的研究」、第99号、63-71.
- ・山田恒夫 (1997) 高等専門学校共通教材のマルチメディア化とネットワーク化について 放送教育開発センター研究報告「高等専門学校用教材の利用状況とニーズに関する研究—新しい高専教材の開発をめざして—」、第101号、74-78.
- ・山田恒夫 (1997) 大学における一般情報処理教育の将来—情報リテラシーの変容 大阪大学情報処理教育センター広報、36-39.

#### (4) 報告書

- ・宮本友弘 (2001) イリノイ大学：ITCの教育利用支援リソース 科学研究費補助金基盤研究 (B) (2)「高等教育における高度情報通信技術の活用」(研究代表者：坂元昂) 研究成果報告書 (印刷中)
- ・高津直己 (2001) バーチャルユニバーシティの実態調査報告 (カナダ・北米・ドイツ・フランス) 科学研究費補助金基盤研究 (B) (2)「高等教育における高度情報通信技術の活用」(研究代表者：坂元昂) 研究成果報告書 (印刷中)
- ・浅野弘明・宮本友弘・林恭平・福井康雄 (2000) 看護系養成学校におけるメディア環境、及び、メディア利用とメディア教材のニーズに関する調査結果 メディア教育開発センター研究報告、15、49-91.
- ・市古喬男・芝崎順司 (2000) コンピュータリテラシー教育のあり方と教材に関する調査結果。メディア教育開発センター研究報告、15、93-116
- ・小野瀬雅人・宮本友弘 (2000) 学校週5日制下における学習指導の援助ニーズに関する予備的研究 平成9年度～11年度科学研究費補助金 (基盤研究 (C) (1)) 研究成果報告書「学校週5日制に対応した学習指導を援助する学校心理学的サービスに関する研究—不登校・LD (学習障害) 等を中心に— (課題番号09610125、研究代表者小野瀬雅人)」、29-39.

- ・芝崎順司 (2000) 高等教育における教材の開発および開発支援環境に関する調査 メディア教育開発センター研究報告、15、1-48.
- ・宮本友弘 (1998) 映像教材の開発・制作におけるデジタル・ノンリニア編集システムの可能性の検討 平成7～9年度科学研究費補助金(基盤研究(A)(1))研究成果報告書「初任者教師の力量形成を支援するデスクトップビデオ編集による授業ビデオ教材の開発」(課題番号07558145、研究代表者片平克弘)、46-53.
- ・芝崎順司 (1998) ビデオ教材「博物館学芸員の仕事ー考古編ー」の評価調査 メディア教育開発センター研究報告、1、129-136.
- ・山田恒夫・近藤喜美夫・浅井紀久夫・福井康雄・宮本友弘・田中健二・鮎澤孝子・谷口聡人・高橋守人・MariNoda・SukhumanNilrat・TakakoOhashi・EmiNumata・NarongHemmakorn. (1998) 日本語教育、日本語教師教育における国際衛星通信利用の可能性と問題点ーそのカリキュラムと教材の開発に向けてー 日本教育工学会研究報告集、JET98-6、63-70.
- ・山田恒夫 (1997) 平成7・8年度科学研究費補助金基盤研究(C)(2)(一般)研究成果報告書「第2言語学習者における音声知覚獲得過程の分析ー日本語特殊音韻の学習過程を題材としてー(研究課題番号:07801015)」、1-59.
- ・山田恒夫・近藤喜美夫・田中健二・浅井紀久夫・鮎澤孝子・谷口聡人・高橋守人・Sukhuman Nilrat・Janjira Jittaviriyapong・Narong Hemmakorn (1998) 外国語教育における衛星系ネットワークシステム利用の可能性と問題点. 日本教育工学会研究報告集、JET98-1、61-66.

#### (6) その他の出版物

- ・加藤浩 (2000) 学習共同体. 日本教育工学会(編)、教育工学事典 実教出版
- ・芝崎順司 (2000) 21世紀のメディアと教育ー私のキーワード②ー生涯学習者としての準備におけるICTの役割と情報リテラシー 放送教育、54(10)、36-39.
- ・宮本友弘 (2000) 実践型の教育心理学ーイリノイ大学に滞在してー NIME-Newsletter、No.19、8.
- ・山田恒夫 (2000) 北米における第2言語教育支援システムの最新動向 NIME-Newsletter、No.19、9.
- ・山田恒夫 (2000) 海外レポート:教育ソフトウェアの品質保証システムに関する国際共同作業ーOECD/CERIの活動から NIME-Newsletter、No.17、8.
- ・芝崎順司 (1999) 21世紀のメディアと教育ー私のキーワード①ーインターネット・リテラシーと情報の評価 放送教育54(9)、34-37.
- ・芝崎順司 (1999) 海外レポート:大学図書館における情報リテラシー教育 NIME-Newsletter、No.13、8.
- ・山田恒夫 (1999) 学習、学習心理学、行動など49項目 中島義明・安藤清志・子安増生・坂野雄二・繁榊算男・立花政夫・箱田祐司(編)、心理学辞典 有斐閣
- ・福井康雄 (1988) NIME情報8ーメディア教材開発事業の展開 視聴覚教育、52(11)、

44-45.

- ・宮本友弘（1998） NIME情報3－「心の教育」を支援する教師教育教材の開発 視聴覚教育、52（6）、36-37.
- ・宮本友弘（1998） 海外レポート：オハイオ州立大学の日本語授業の収録 NIME-Newsletter、No.6、8.
- ・芝崎順司（1998） デジタル化時代に対応した教材と学校放送番組の可能性（NHK学校放送番組部からの受託研究）、日本放送教育協会、178-182.
- ・山田恒夫（1998） NIME情報6－マルチメディア/ネットワークを利用した外国語教育高度化の研究 視聴覚教育、52(9)、84-85.
- ・宮本友弘（1997） ノンパラメトリック検定など4項目 國分康孝（監）、スクールカウンセリング事典 東京書籍
- ・芝崎順司（1997） 21世紀の担い手に聞く－これからの視聴覚教育が進む道－視聴覚教育の透明化と再認識への道 視聴覚教育51（12）、6-7.
- ・芝崎順司（1997） DVDビデオ教材の開発とその教育・研究利用 視聴覚教育51(5)、46-47.
- ・音好宏・赤尾晃一・芝崎順司（1997） メディア環境の変化とマスメディア（NHK学校放送番組部からの受託研究） 日本放送教育協会、112-119.

#### (7) 制作物、開発物

- ・福井康雄・宮本友弘（企画制作）（2001） 教師教育教材「学校教育とカウンセリング」シリーズ「学習指導での実践事例、学級集団づくりでの実践事例、進路指導での実践事例」（各VTR、1巻） メディア教育開発センター事業部
- ・福井康雄・芝崎順司（企画制作）（2001） 看護教育教材シリーズ「治験コーディネーター編、看護倫理編、看護における情報の活用」（各CD-ROM、1巻） メディア教育開発センター事業部
- ・芝崎順司・福井康雄（企画制作）（2001） 研究開発部看護教育教材「看護における情報の活用」（DVD-ROM、1巻） メディア教育開発センター研究開発部
- ・高津直己（企画制作）（2001） CALL教材シリーズ「英語中上級：ListentoMe！」（CD-ROM、1巻） メディア教育開発センター事業部
- ・高津直己（企画制作）（2001） CALL教材シリーズ「中国語中級」（CD-ROM、1巻） メディア教育開発センター事業部
- ・高津直己（企画制作）（2001） 高等学校「情報」教員養成教材シリーズ（CD-ROM、2巻、VTR、2巻） メディア教育開発センター事業部
- ・山田恒夫（監修）（2001） 高等教育CALL教材「アカデミック英語リスニング上級2」（DVD-audio、1巻） メディア教育開発センター研究開発部
- ・山田恒夫（企画制作）（2001） CALL副教材シリーズ「日本語韻律Vol.1東京語のアクセントとイントネーション、Vol.2アクセントの聞き取り練習と外来語アクセント」（各CD-ROM、1巻）、メディア教育開発センター事業部.
- ・山田恒夫・加藤敏夫（企画制作）（2001） 教師教育教材「総合的な学習の時間」シリーズ

- 2 (CD-ROM、2巻) メディア教育開発センター事業部
- ・福井康雄・宮本友弘 (企画制作) (2000) 教師教育教材「学校教育とカウンセリング」(VTR、3巻) メディア教育開発センター事業部
  - ・福井康雄・芝崎順司 (企画制作) (2000) 看護教育教材「創傷・オストミーケア」(CD-ROM、1巻) メディア教育開発センター事業部
  - ・坂元昂・井口磯夫・石井宗雄・椎名健・関口一郎・成田雅博・波多野和彦・平久江祐司・三尾忠男・宮岸一孝・村山功・山田恒夫・山本順一 (企画制作) (2000) 司書教諭情報化研修マルチメディア教材 (DVD-video、1巻、CD-ROM、6巻) 情報処理振興事業協会・コンピュータ教育開発センター
  - ・高津直己・山田恒夫 (企画制作) (2000) CALL教材シリーズ「ListentoMe!Vol.3TV-News,Vol.4-1MovieTime1、Vol.4-2MovieTime2」(各CD-ROM、1巻) メディア教育開発センター事業部
  - ・芝崎順司 (企画制作) (2000) 情報教育プロトタイプ教材「情報リテラシー」(インターネット) メディア教育開発センター研究開発部
  - ・山田恒夫 (監修) (2000) 高等教育CALL教材・実験用プロトタイプ「アカデミック英語リスニング上級1」(DVD-audio、1巻) メディア教育開発センター研究開発部
  - ・山田恒夫・飯森彬彦 (企画制作) (2000) 教師教育教材「総合的な学習の時間」シリーズ1 (DVD-Video、1巻、CD-ROM、1巻) メディア教育開発センター事業部
  - ・宮本友弘・山田恒夫 (監修)、福井康雄 (制作指揮) (1999) 教師教育教材「学校教育とカウンセリング」(DVD-Video、1巻) メディア教育開発センター研究開発部
  - ・高津直己・山田恒夫 (企画制作) (1999) CALL教材シリーズ「Listen to Me! Vol.1 College Lectures, Vol.2 People Talk」(各CD-ROM、1巻) メディア教育開発センター事業部
  - ・山田恒夫 (1999) 学習、学習心理学、行動など49項目 中島義明・安藤清志・子安増生・坂野雄二・繁榊算男・立花政夫・箱田祐司 (編)、心理学辞典 (CD-ROM版) 有斐閣
  - ・福井康雄・宮本友弘 (企画制作) (1998) 教師教育教材「学校教育とカウンセリング」シリーズ「担任教師による実践事例、スクールカウンセラーによる実践事例、専門教育機関相談員による実践事例」(各VTR、1巻) メディア教育開発センター研究開発部
  - ・野田真理・山田恒夫 (監修) (1998) 日本語教師教育教材「オハイオ州立大学における日本語教育」(VTR、1巻) メディア教育開発センター研究開発部
  - ・山田恒夫・福井康雄・坂元昂 (企画)、山田恒夫・影浦攻 (監修) (1998) 教師教育教材「小学校における国際理解教育－外国語学習の取り組み－」(DVD-Video/DVD-ROMハイブリッド、1巻) メディア教育開発センター研究開発部

#### (8) 国際会議

- ・Yamada, T. (2001). Development of DVD-Audio Instructional Materials for Listening to Foreign Language Sounds: A new prototype for language learning. International Association for Language Learning Technology (IALL) 2001 (Houston, USA) .
- ・Haomin Jin, Xu Xu, Yaginuma Yoshitomo and Masao Sakauchi (2000). A System of

Integrating Videos and Maps for the Identification of Building Object. Proceedings of IEEE International Conference on Multimedia and Expo(ICME '2000), TA5-04.

- Hideyuki Suzuki, Hiroshi Kato, Etsuji Yamaguchi, and Shigenori Inagaki (2000). An ethnographic investigation of the learning of a teacher-as-local-expert in the first phase of introducing computers into an elementary school. PDC2000, Proc. of the Participatory Design Conference, 166-173.
- Miyamoto, T., Harnisch, D. L., Yamada, T., & Hiraga Y. (2000). Issues in the design and development of DVD-materials for teacher training in counseling. In D. A. Willis, J. D. Price, & J. Willis (eds.), Proceedings of the Society for Information Technology & Teacher Education 11th International Conference (pp. 1144-1149). Charlottesville, VA: Association for the Advancement of Computing in Education.
- Xu Xu, Haomin Jin, Yoshitomo Yaginuma and Masao Sakauchi (2000). Proposal of a Video Data Filter for Real-world Information. Proceedings of IEEE International Symposium on Intelligent Signal Processing and Communication Systems (ISPACS '2000).
- Xu Xu, Haomin Jin, Yoshitomo Yaginuma and Masao Sakauchi (2000). Filtering Real-world Information from TV Programs. Proceedings of First International Conference on Image and Graphics (ICIG '2000), 649-652.
- Yunyun Cao, Wenli Zhang, Yoshitomo Yaginuma and Masao Sakauchi (2000). Proposal of Real World Video Stream Description Language (VSDL-RW) and Its application. Proceedings of IEEE International Conference on Image Processing (ICIP '2000).
- Yunyun Cao, Wenli Zhang, Yoshitomo Yaginuma and Masao Sakauchi (2000). Proposal of a Locating Method with Video of Driving Shot. Proceedings of IFIP International Conference on Signal Processing (ICSP '2000), Vol. 2, 1172-1179.
- Zhang Wenli, Yoshitomo Yaginuma and Masao Sakauchi. (2000). Visualization browsing for Video database in a flexible way. Proceedings of First International Conference on Image and Graphics (ICIG '2000), 669-672.
- Zhang Wenli, Yoshitomo Yaginuma and Masao Sakauchi (2000). A Video Movie Annotation System -Annotation Movie with its Script. Proceedings of IFIP International Conference on Signal Processing (ICSP '2000), Vol. 2, 1362-1366.
- Yamada, T. (2000). Development of multimedia instructional materials at NIME-Towards advanced utilization of ICT in Japanese higher education-. The Association for Educational Communications and Technology (AECT), International Council's 9th Leadership Project: International Producers Initiative (Long Beach, CA). [invited]
- Shibasaki, J. (1999). A study of effects of Educational technology in Japan. The Association for Educational Communications and Technology (AECT), International Council's 8th Leadership Project: International Producers Initiative (Houston, TX). [invited]
- Yamada, T., Erickson, D., & Tajima, K. (1999). Effect of syllable structure on syllable counting in English by Japanese. 154th meeting of Acoustical Society of America (Columbus, Ohio).

- The Journal of the Acoustical Society of America,
- Miyamoto, T., Yamada, T., & Fukui, Y.(1998). Development and evaluation of a DVD-Video instructional material for counseling skill training in teacher education. Paper presented at The 24th International Congress of Applied Psychology, San Francisco, USA.
- Yamada, T., Fukui, Y., Shibasaki, J., Miyamoto, T., Kondo, T., & Sakamoto, T.(1998). Is DVD-Video effective as a media of instructional materials for teacher training? Paper presented at The 24th International Congress of Applied Psychology, San Francisco, USA.
- Yamada, T. (1997). Development of DVD-Video instructional material for teacher training. In Frank L. Borchardt (Ed.), Proceedings of the Computer Assisted Language Instruction Consortium [CD-ROM, ISBN 1-890127-01-9](1 page). CALICO.
- Yamada, T., & Akahane-Yamada, R. (1997). Development of a computer-assisted learning system for Japanese speech perception. In Frank L.Borchardt (Ed.), Proceedings of the Computer Assisted Language Instruction Consortium [CD-ROM, ISBN1-890127-01-9], (5pages). CALICO.

#### (9) 研究会・全国大会

- 石隈利紀・小野瀬雅人・篠田晴男・宮本友弘・横島義昭・関根たまえ・山口豊一 (2000) 学校週5日制に対応した学習指導に関する学校心理学的研究(3)―小・中・高等学校の児童生徒の援助ニーズを中心に―、日本教育心理学会第42回総会発表論文集、89.
- 加藤浩 (2000) ゲームを用いた大学文科系向けプログラミング教育の実践 教育工学関連学協会連合第6回全国大会講演論文集 (第二分冊)、219-220.
- 久保理恵子・山田玲子・山田恒夫 (2000) 中高年齢層を対象とした/r/、/l/音の知覚学習 関西心理学会第112回大会論文集、27.
- 宮本友弘 (2000) カウンセリング事例映像に対する教師の視聴反応の分析 教育工学関連学協会連合第6回全国大会講演論文集 (第二分冊)、549-550.
- 宮本友弘 (2000) 米国におけるスクールサイコロジストの実践―イリノイ州アーバナ市の事例― 塩見邦雄・小野瀬雅人 (企画)、自主シンポジウム15：児童生徒の学習支援における学校心理士の役割と課題 日本教育心理学会第42回総会発表論文集、S60-S61.
- 宮本友弘 (2000) 教師教育用カウンセリングDVD教材の評価 日本教育心理学会第42回総会発表論文集、407.
- 宮本友弘 (2000) カウンセリング事例映像構成における諸問題―教師教育教材の開発と評価から― 日本教育メディア学会研究会論集、第5号、30-37.
- 永岡慶三・結城皖曠・大西仁・加藤浩・田中健二 (2000) 遠隔広域ネットワークによる高等教育手法の研究開発 教育工学関連学協会連合第6回全国大会講演論文集、47-48.
- 仁科エミ・芝崎順司・山田恒夫・近藤智嗣・大澤範高・杉本裕二・永岡慶三 (2000) バーチャル・ユニバーシティ推進事業におけるオーサリングソフト開発について 日本教育工学関連学協会連合第6回大会講演論文集、363-366.
- 小野瀬雅人・石隈利紀・篠田晴男・宮本友弘・関根たまえ・山口豊一・横島義昭 (2000)

- 学校週5日制に対応した学習指導に関する学校心理学的研究(1)―小・中・高等学校の児童生徒の援助ニーズを中心に―、日本教育心理学会第42回総会発表論文集、87.
- ・芝崎順司・近藤智嗣 (2000) Web情報に対する教員の批判的認識に関する調査 日本教材学会第12回研究発表大会プログラム、63.
  - ・篠田晴男・小野瀬雅人・石隈利紀・宮本友弘・山口豊一・横島義昭・関根たまえ (2000) 学校週5日制に対応した学習指導に関する学校心理学的研究(2)―小・中・高等学校の児童生徒の援助ニーズを中心に―、日本教育心理学会第42回総会発表論文集、88.
  - ・鈴木栄幸・加藤浩 (2000) 学習における教育システムの位置. 加藤浩・有元典文 (企画)、自主シンポジウム20: 認知的道具のデザイン―道具使用とコミュニティの相互的变化― 日本教育心理学会第42回総会発表論文集、S70-S71.
  - ・高津直己 (2000) 高等教育向けメディア教材の設計・開発. 教育工学関連学教会連合第6回全国大会講演論文集 (第二分冊)、679-680.
  - ・山田恒夫 (2000) 教材メディアとしてのDVD 日本教育メディア学会研究会論集、第5号、23-27.
  - ・山田恒夫 (2000) DVD-audioを活用した英語リスニング教材の開発 教育工学関連学教会連合第6回全国大会講演論文集 (第二分冊)、375-376.
  - ・山田恒夫 (2000) メディア教育開発センターにおける外国語教材開発 大学入試センター研究開発部共同研究I「英語教育の現状と今後の展開」研究会
  - ・山田恒夫・當作靖彦 (2000) 「日本語教育の情報化」に関する教師教育カリキュラム・研修の開発(1). 教育工学関連学教会連合第6回全国大会講演論文集 (第一分冊)、195-198.
  - ・山田恒夫・足立隆弘・山田玲子 (2000) 英語マルチメディア教材に付加するインターネット学習者支援機能の研究開発―学習者支援ホームページと電子メールの利用分析― 日本教育工学会研究報告集、JET2000-1、1-6.
  - ・永岡慶三・結城皖曠・望月要・大西仁・仁科エミ・菊川健・山田恒夫・田中健二 (1999) 超高速ネットワーク回線「研究開発用ギガビットネットワーク」の教育研究応用 日本教育工学会第15回大会講演論文集、229-230.
  - ・太田裕彦・山田恒夫・宮本友弘 (1999) DVD教材に関する定性的評価研究の試み 日本心理学会第63回会論文集、988.
  - ・小野瀬雅人・宮本友弘・石隈利紀・篠田晴男 (1999) 学校週5日制による学習指導の援助ニーズに関する学校心理学的研究 日本教育心理学会第41回総会論文集、624.
  - ・芝崎順司 (1999) 情報環境の変化と情報リテラシの位置づけ 日本教育工学会第15回大会講演論文集 293-294
  - ・芝崎順司・近藤智嗣 (1999) Web情報に対する批判的リテラシ教育の現状と課題 日本教育メディア学会第6回大会 85-86
  - ・芝崎順司 (1999) 情報のデジタル化に対応したメディア教育の動向 (課題研究指定討論) 日本教育メディア学会第6回大会 107-108
  - ・芝崎順司 (1999) メディア教育と視聴覚教育の融合 日本教育メディア学会研究会論集第2号、24-35.



- ・高田智子・久保理恵子・山田玲子・駒木亮・山田恒夫（1999） 60歳代日本語話者による米語RL音の知覚学習 関西心理学会第111回大会論文集、
- ・山田恒夫（1999） ワークショップ24「メディアと体験で学ぶ心理学」 日本心理学会第63回大会論文集、(63)
- ・山田恒夫・浅井紀久夫・近藤喜美夫（1999） 第2言語教育における国際衛星通信利用の可能性と問題点 日本教育工学会第15回大会講演論文集、227-228.
- ・宮本友弘（1998） DVDを利用したカウンセリング教材の開発 日本教材学会第10回研究発表大会プログラム、76
- ・宮本友弘・山田恒夫・福井康雄（1998） 看護教育におけるメディア教材の利用状況とニーズ 日本教育工学会第14回大会講演論文集、71-72.
- ・宮本友弘・山田恒夫・福井康雄（1998） 「心の教育」を支援する教師教育教材の開発と評価ービデオ及びDVDによるカウンセリング教材 日本視聴覚・放送教育学会第5回大会発表論文集、96-97.
- ・谷口聡人・鮎澤孝子・山田恒夫（1998） 衛星通信を利用した日本語遠隔授業の実施報告ータイ国キングモンクット工科大学と結んでー 平成10年度日本語教育学会秋季大会論文集
- ・谷口聡人・山田恒夫・鮎澤孝子（1998）. 衛星通信による国際的日本語教育交流のあり方を考える. 第22回東京音声言語研究会（お茶の水女子大学文教育学部）.
- ・山田恒夫・福井康雄・宮本友弘（1998） DVDとインターネットを併用した教師教育教材の開発と評価 日本教育工学会第14回大会講演論文集、723-724.
- ・山田恒夫・福井康雄・宮本友弘（1998） 国際理解教育を支援する教師教育教材の開発 日本視聴覚・放送教育学会第5回大会発表論文集、94-95.
- ・福沢周亮・宮本友弘（1997） ブルーナの絵本の魅力の研究(1)ー人物画のイメージの分析ー 日本読書学会第41回研究大会発表資料集、52-58.
- ・宮本友弘（1997） 地形の視覚表現に対する生徒と教師の評価の比較 日本心理学会第61回大会発表論文集、383.
- ・宮本友弘・近藤智嗣（1997） DVDメディアの特性を生かした映像教材の開発 日本教材学会第9回研究発表大会プログラム、76.
- ・宮本友弘・三尾忠男・山田恒夫（1997） DVD-Videoを利用した教師教育教材の開発と評価(2) 教育工学関連学協会連合第5回全国大会講演論文集（第二冊分）、651-652.
- ・宮本友弘・田中敏（1997） 心理的無組織化症候群（PDOS）の研究Ⅱープリクラに見るコミュニケーションの変質ー 日本教育心理学会第39回総会発表論文集、304.
- ・大塚雄作・中村知靖・山地弘起・三尾忠男・宮本友弘（1997） 遠隔高等教育における授業・教材評価尺度の標準化の試み 日本教育心理学会第39回総会発表論文集、359.
- ・芝崎順司・近藤智嗣（1997） 映像構成技能の発達的研究(2) 教育工学関連学協会連合第4回全国大会講演論文集、57-58.
- ・芝崎順司・近藤智嗣（1997） 授業記録の教材化におけるエキスパートによるアングル選択の意志決定に関する研究 日本教材学会第9回研究大会研究プログラム、56.
- ・田中敏・宮本友弘（1997） 心理的無組織化症候群（PDOS）の研究Ⅰーコミュニケーション

ン行動における他者のアイテム化ー。日本教育心理学会第39回総会発表論文集、303.

- ・山田恒夫・宮本友弘・芝崎順司・近藤智嗣・福井康雄（1997） DVD-Videoを利用した教師教育教材の開発と評価(1) 教育工学関連学協会連合第5回全国大会講演論文集（第二冊分）、649-650.
- ・山田恒夫・山田玲子（1997） 第2言語音声の知覚学習が発声に及ぼす効果ー米語話者による日本語短母音・長母音・促音の学習の場合ー 日本心理学会第61回大会講演論文集、748.

#### (10) 講演等

- ・福井康雄（2001） 高等教育支援と教材開発 NIME教材「学校教育とカウンセリング」プロジェクト公開研究会（学術総合センター）
- ・山田恒夫（2001） 第2言語教育における情報通信技術利用の可能性と問題点 外国語メディア教育学会関西支部マネージメント部会およびマルチメディア・アンド・インターネット部会合同研究会
- ・加藤浩（2000） 学習環境の社会的状況デザイナー対戦ゲームを用いた情報教育の試みー情報文化学会第10回マルチメディア研究部会研究会
- ・山田恒夫（2000） 日本語教育におけるメディア利用を考える（第2部「衛星通信・ネットワークを中心に」パネリスト） 国際シンポジウム・デモンストレーション・ワークショップ「日本語教育における教育資源の開発・流通・共有化ーマルチメディア・インターネット・衛星通信の利用をめぐって」
- ・山田恒夫（1999） 第2言語教育における国際衛星通信ネットワークシステム利用に関する実験ースペースコラボレーションシステムとキングモンクット工科大学を接続してー ポストパートナーズ計画実験成果報告会
- ・山田恒夫・福井康雄・宮本友弘（1998） 教材メディアとしてのDVD-DVDを活用した教師教育教材の開発と評価 マルチメディアCDコンソシアム夏のフォーラム（東京・明治記念館）
- ・山田恒夫（1998） 高等教育におけるマルチメディア・ネットワーク利用の高度化について 第15回大阪大学情報処理教育研究会（大阪・大阪大学情報処理教育センター）
- ・福井康雄・宮本友弘（1997） 千葉県情報教育センター情報教育指導者講座「これからのマルチメディアと教育ーDVD教材の開発を中心にー」
- ・福井康雄（1997） 第一回視聴覚総合全国大会（小学校）教材開発分科会指導助言
- ・福井康雄・芝崎順司・山田恒夫・宮本友弘・近藤智嗣（1997） “日本視聴覚教育協会主催ニューメディア研究会「メディア教育開発センターDVD教材のデモ及び施設見学」
- ・芝崎順司（1997） 第一回視聴覚総合全国大会（中学校）教材開発分科会指導助言者
- ・山田恒夫・福井康雄（1997） CALL教材共同開発シンポジウム「大学におけるCALL用教材の共同開発について」（主催：千葉大学外国語センター、後援：文部省メディア教育開発センター）